

富山高専専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	総合国語Ⅱ A	
科目基礎情報							
科目番号		0022		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		物質化学工学科		対象学年	2		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		論理国語（筑摩書房）／精選古典探求（大修館書店）／精選文学国語（明治書院）／新総合図説国語（東京書籍）／常用漢字ダブルクリア四訂版・別冊徹底トレーニングノート総合タイプ（尚文出版）					
担当教員		加島 正浩					
到達目標							
1. 文章中で使用される語句や表現を理解し、それらの意味を適切な言葉を用いて説明することができる。 2. 論理や文章の展開を理解し、文章の趣旨を適切な言葉を用いて説明することができる。 3. 授業内で用いた文章の内容を適切に咀嚼したうえで、自らの意見を構築し、それを文章によって表現することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
文章中で使用される語句や表現を理解し、それらの意味を適切な言葉を用いて説明することができる。		文章中の語句や表現を、適切な言葉を用いて説明することができ、実際に自分で使用することができる。		文章中の語句や表現の意味を説明することができる。		文章中の語句を説明することができず、自分で使用することができない。	
論理や文章の展開を理解し、文章の趣旨を適切な言葉を用いて説明することができる。		文章の主意を、適切な言葉を用いて文章として説明することができる。		教科書の文章を用いながら、文章の主意がどこにあるかを説明することができる。		文章の主旨を説明することができず、それを適切な言葉を用いて文章化することができない。	
授業内で用いた文章の内容を適切に咀嚼したうえで、自らの意見を構築し、それを文章によって表現することができる。		文章の内容を適切に理解し、内容を踏まえたうえで、自らの意見を文章によって表現することができる。		文章の内容を踏まえ、自らの意見を表明することができる。		文章の内容を適切に理解できず、内容を踏まえて、自らの意見を構築することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 漢字や語彙などの基本的な知識を身につけ、論理構成に即して、さまざまな文章の趣旨を理解できるようにする。 2. 読んだ文章を踏まえたうえで、自身の意見や考えを構築し、他者に伝わる適切な文章を書けるようにする。					
授業の進め方・方法		担当教員による講義およびグループワーク。					
注意点		文章を読むだけではなく、それを踏まえたうえで自らの考えを構築し、他の受講生と意見を共有し合いながら自らの考えを見直すという有意義な時間が形成できるように、授業内で提示された課題には積極的に取り組む姿勢が望まれる。 また授業計画は、受講者の理解度に応じて変更する場合がある。 なお本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		本授業の目的や具体的な学習方法について、説明できる。		
		2週	方丈記「行く河の流れ」		「行く河の流れ」の内容を理解し、『方丈記』における「無常」の意味を理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の古典単語については意味を調べておき、現代語訳を作成しておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉		
		3週	方丈記「安元の大火」		「安元の大火」の内容を理解し、同時代に流行していた無法思想との関連から『方丈記』が書かれた意義を説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の古典単語については意味を調べておき、現代語訳を作成しておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉		
		4週	夏目漱石『こころ』①		Kと「私」の関係について理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉		
		5週	夏目漱石『こころ』②		Kと「私」と奥さんの関係を、ジラールの「欲望の三角形」の図式を用いて理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉		
		6週	夏目漱石『こころ』③		Kが自殺した理由を理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉		

		7週	夏目漱石『こころ』④	「私」がKの自殺を公にできなかった理由を理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉
		8週	前期中間試験	第1～7回の授業の内容について確認する試験で、50/100点以上を取得できる。
	2ndQ	9週	答案返却	前期中間試験の内容について理解し、国語の記述問題や読解問題に対する理解を深めることができる。
		10週	岸政彦「沖縄戦を聞く」①	指示語の内容を確実に押さえ、本文の内容を理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉
		11週	岸政彦「沖縄戦を聞く」②	「聞くこと」と「書くこと」のつながりを理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉
		12週	更科功「100パーセントは正しくない科学」①	「帰納」・「演繹」・「捨象」などの重要語を確実に理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉
		13週	更科功「100パーセントは正しくない科学」②	「科学」の手順の二パターンについて理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、未知の単語については意味を調べておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉
		14週	歴代名画記「画竜点睛」	「画竜点睛」という故事成語が成立した背景にある内容を理解し、説明することができる。 〈授業外学習事前：授業で扱う部分を読み、書き下し文を事前に作成しておく〉 〈授業外学習事後：授業内容と板書を基に、扱った内容を整理し、理解を深めておく〉
		15週	期末試験	第11～15回の授業の内容について確認する試験で、50/100点以上を取得できる
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前2,前3,前4,前9,前10
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前2,前3,前4,前9,前10
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前14,前15
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前16

			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前16
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前16
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前16
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前16
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前4
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前4
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前4
評価割合					
	試験	課題テスト	提出物	合計	
総合評価割合	80	10	10	100	
基礎的能力	80	10	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	